

アイアフス

# いわてアグリフロンティアスクール (IAFS)

経営感覚・企業家マインドをもって経営革新、地域農業の確立に  
取り組むことができる先進的な農業経営者を育てます



資料3

## いわてアグリフロンティアスクール について

岩手大学農学部

佐藤和憲

## 基本的な特徴

- 目的
  - 高度な経営能力を有する先進的な農業経営者の育成
  - 地域農業を牽引する中核的な農業経営者の育成
- 組織体制
  - 岩手大学、岩手県、JAいわてグループによる協議会が運営
  - 岩手大学がカリキュラムを策定し、授業実施、教務管理
- 資格授与
  - 修了要件を満たし評価委員会の審査をパスした者には岩手大学の学則に基づき「アグリ管理士」の資格を授与

# フロンティアスクールの歴史

- いわて農業者トップスクール設立(2004年)
  - 岩手大学・岩手県農林水産部の共催
- いわてアグリフロンティアスクール設立(2007年)
  - 文科省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム事業」
  - 設置要項制定、学則に基づいたアグリ管理士の認定
- いわてアグリフロンティアスクール継続(2010年)
  - 文科省「社会の食ニーズ対応型社会人再教育プログラム事業」
  - 食ニーズ(安全・信頼)に対応したプログラム強化
- いわてアグリフロンティアスクール再編(2013年)
  - 岩手大学・岩手県・JAいわてグループによる協議会運営へ
  - 対象を県内の農業経営者、農業後継者に絞る
  - 県、JAグループの人材、資源を活用した授業実施

## 教育目標

- 国際競争時代に通用する経営能力とビジネス感覚の修得
- 最先端の農業生産・流通技術の修得
- 加工品の開発能力とマーケティング能力の修得
- 経営戦略計画の自主的な策定、自己変革精神の習得

# 教育内容の特徴

- 基本的な内容から高度な内容のものまで幅広い教科で構成
- 講義、実習・演習、現地調査、現場スタディなど多種多様な教育スタイル
- 知識の習得のみならず、実践的に活用できる教育
- 受講者の時間的な事情とニーズに配慮したカリキュラム編成と授業実施
- 自ら経営戦略計画を策定し、その外部評価を受けるといったPBL方式

# 教育体系

## 経営管理と経営戦略・計画策定

農業経営者の機能と役割、経営者能力を明確に理解し、農業経営管理に必要なノウハウを学習する。  
さらに自らの経営戦略の計画を策定するための策定方法や手法を学習する。

## 農業生産・流通管理

圃場における土壌管理、病虫害管理の改善方策の考え方と実際を学習する。  
さらに食の安全に必要な農産物の衛生管理、品質管理について学習する。

## 加工品開発とマーケティング

消費者ニーズや流通の仕組み、および6次産業化に向けた考え方を学習する。  
さらにマーケティングの観点から、加工品開発、デザインの役割について、実習を行いながら学習する。

## 農業ビジネス戦略計画の策定

学習で修得した知見、ノウハウを用いて、農業を取り巻く環境の分析、経営の経営診断を行った上で、自らの夢・希望を経営ビジョンとして企画し、実践するための農業ビジネス戦略計画を策定し、修了論文として取りまとめ発表する。

# アグリ管理士

# カリキュラム

## 戦略計画の策定と経営管理

科目名	日数	時間数
1. 農業を巡る内外情勢 (講義)	0.5	3
2. 農業経営の発展と農業協同組合 (講義)	1	6
3. 人的資源・労務管理 (講義)	1	6
4. 農産物・加工品のマーケティング (講義)	1	6
5. 経営成長の管理 (講義)	1	6
6. 農業経営戦略論 (講義)	1	6
7. 農業経営戦略演習 (演習)	1	6
8. 会計・財務管理と経営診断 (講義)	2	12
9. 経営改善計画演習 (演習)	1	6
10. 農業ビジネス戦略計画の策定 (講義・演習)	2	12
11. 戦略計画のプレゼンテーション (発表)	1	6







# カリキュラム

## 農業生産管理

科目名		日数	時間数
1. 土壌管理（土壌・肥料）	（講義）	1	6
2. 病害虫管理（防除・農薬）	（講義）	1	6
3. 鮮度保持・流通技術	（講義）	1	6
4. 農場の衛生管理	（講義）	1	6

## マーケティング

科目名		日数	時間数
1. インターネットを利用した農産物マーケティング	（講義）	1	6
2. 食の安全管理	（講義）	1	6
3. 商品開発	（講義）	1	6
4. デザインとブランド	（講義）	1	6





# カリキュラム

## 現地研修等

科目名	日数	時間数
1. 現場スタディ (現地研修)	2	12
2. マーケティング改善演習 (演習・現地研修)	2	12
3. 農業技術先進地研修 (現地研修)	2	12
4. アグリ管理士との意見交換 (講義・意見交換)	1	6

戦略計画の策定と経営管理

75時間 (12.5日)

農業生産管理

24時間 (4日)

マーケティング

24時間 (4日)

現地研修等

42時間 (7日)

総授業時間数

計165時間 (27.5日)

※アグリ管理士の取得には、必修科目「経営成長の管理」、「農業経営戦略論」、「農業経営戦略演習」、「会計・財務管理と経営診断」、「経営改善計画演習」、「農業ビジネス戦略計画の策定」、「農業ビジネス戦略計画のプレゼンテーション」を全て受講し、選択科目及び現地研修等を合わせて合計120時間以上の履修が必要







\*\*\*\*\*  
1 10:00-11  
2 11:00-12  
\*\*\*  
3 14:00-15  
4 16:00-17





記念財 カワヅサスキ  
1977年10月1日創設  
2017年10月1日現在  
TOSHIBA  
株式会社

Participants seated at the table, some with papers and water bottles. Name tags are visible on the table.

農管第 号

## アグリ管理士認定証書

〇〇〇〇 (氏名)

いわてアグリフロンティアスクールの  
所定の履修条件を満たし、かつ「農業ビジ  
ネス戦略計画のプレゼンテーション」にお  
いて、評価委員会から合格の評価を得たの  
で、ここにアグリ管理士の資格を授与する

平成〇〇年〇〇月〇〇日

岩手大学長代行

西 谷 泰 昭

岩手大学農学部長

長 澤 孝 志

農管第 号

## 履修証明書

〇〇〇〇 (氏名)

昭和〇〇年〇〇月〇〇日生

学校教育法第105条の規程に基づき下記の課程を  
修了したことを証する

記

課程名称 いわてアグリフロンティアスクール

課程の目的

農業における先導的な経営体・経営者の育成及び経営体・経営者の経営力強化を図るべく、経営感覚・  
企業家マインドを持って経営革新、地域農業の確立に取り組むことができる先導的な農業経営者の育成  
を目的に編成したものである。

平成〇〇年〇〇月〇〇日

岩手大学長代行

西 谷 泰 昭

岩手大学農学部長

長 澤 孝 志

いわてアグリフロンティアスクール

来賓

協議会長様



最優秀賞

# 表彰状

最優秀賞

〇〇市 〇〇〇〇〇〇 殿

あなたは平成〇〇年度いわて  
アグリフロンティアスクールに  
おいて他の模範となる「農業ビ  
ジネス戦略計画」を策定し農業  
ビジネス戦略計画のプレゼンテ  
ーションにおいて最も優秀な成  
績を収められましたのでこれを  
賞します

平成〇〇年〇〇月〇〇日

いわてアグリフロンティアスクール運営協議会長

岩手大学農学部部長 長澤孝志



## 講師陣 (H26年度の例)

- 岩手大学教員(10名)
  - 農学部(9名)、教育学部(1名)
- 岩手県(5名)
  - 試験研究・普及関係職員(4名)
  - 岩手県立大学教員(1名)
- JAいわてグループ(4名)
- 外部講師(34名)
  - 税理士、社会保険労務士、デザイナー、コンサルタント、
  - 岩手県中小企業家同友会、中小企業経営者
  - 農水省、農研機構、他大学、シンクタンク研究員
  - アグリ管理士(修了生)

# 運営体制(2013年度～)

## いわてアグリフロンティアスクール運営協議会

岩手県農林水産部、JAいわてグループ、岩手大学農学部で構成し、「岩手県民計画第2期アクションプラン」に掲げる「先導的な経営体」の育成、「地域農業マスタープラン」及びJAいわてグループが推進する「地域営農ビジョン」に位置づける地域の中心となる経営体の経営力を強化するため、大学の知的資産を活用して「いわてアグリフロンティアスクール」を開設し、産学官の相互理解のもと岩手県農業の振興を図る

### 役員会

- ・事業計画及び収支予算の決定、変更
- ・事業報告、収支決算に関すること
- ・協議会規約、諸規則の変更、改廃
- ・協議会の運営に関する重要な事項

<役員会の構成>  
会長 1名(兼校長):農学部長  
理事 2名:県、JA  
監事 3名:県、JA、大学

### 運営委員会

- ・役員会に付議すべき事項
- ・役員会の議決した事項の執行
- ・運営委員会において必要と認められた事項

<運営委員会の構成>  
委員長 1名(兼副校長):大学  
委員 9名:県・大学1名、  
JA2名  
ほか外部

### 事務局

- ・協議会に関する庶務及びいわてアグリフロンティアスクールの庶務  
事務局長(兼運営委員長)  
事務局員  
岩手県農林水産部、JAいわてグループ、岩手大学農学部

## いわてアグリフロンティアスクール

大学の知的資産を活用し、岩手県農業の持続的な発展に向け、「岩手県民計画第2期アクションプラン」に掲げる「先導的な経営体の育成」と、「地域農業マスタープラン」及びJAいわてグループが推進する「地域営農ビジョン」に位置づける地域の中心となる経営体の経営力強化を図ることを目的に開設し、「アグリ管理士」の資格認定を行う

### 教育体制

- ・校長(農学部長) 1名
- ・副校長(農学部教員) 1名
- ・内部講師(農学部教員)、外部講師

### 評価委員会

- ・資格認定に関わる評価  
委員長 1名(兼副校長)  
委員 16名(運営委員9名含む)

## 運営体制(2013年度～)

- スクール運営予算(H26年度実績)

岩手県の負担金 2,474千円

JAIわてグループの負担金 1,250千円

岩手大学の負担金 1,250千円

受講料 580千円(受講料@2万円×29名)

計 5,554千円(但し岩手大学で別途250千円を計上)

- 人件費(IAFS事務局関係)

– 農学部教授(副校長・運営委員長)～岩手大学人件費

– 農学部地域連携推進室特命教授～岩手大学人件費

– 農学部地域連携推進室主任～岩手大学人件費

– 農学部地域連携推進室事務補佐員～**スクール運営費**

# 受講者の概要

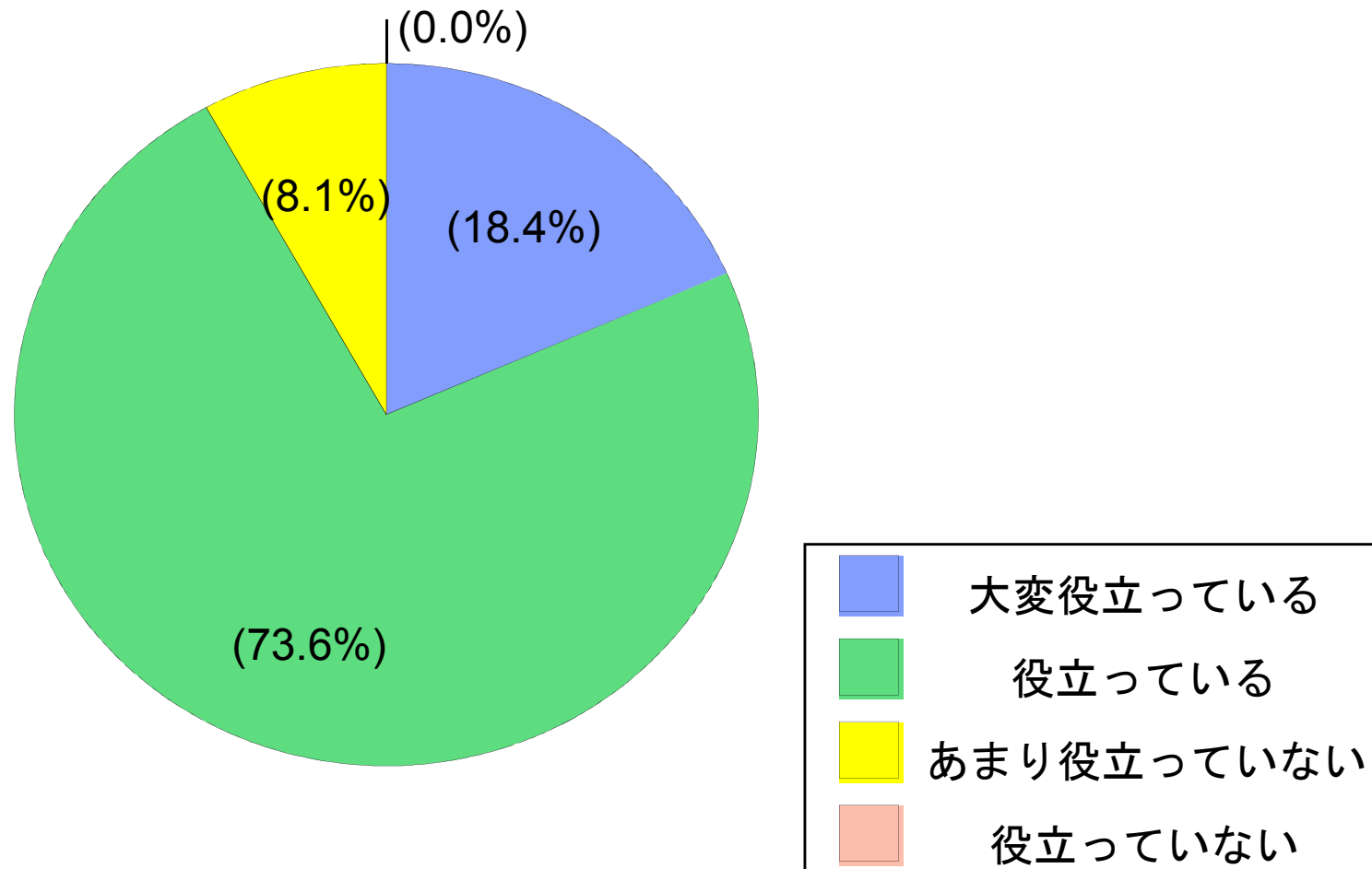
- 応募資格
  - 岩手県内の農業経営者等で、農業経験を有し、以下の大学に入学することができる資格を有すること  
※学校教育法第90条で規定された「高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者・・・(中略)・・・これと同等以上の学力があると認められた者とする。」
- 募集方法
  - 県出先機関(普及センター等)、市町村、JA等関係機関団体
  - スクールの修了生、受講者
- 定員
  - 30名 ※平成26年度受講者数29名
- 受講生の現況
  - 約7割が若手農業経営者・農業後継者  
(H26平均年齢36.4歳)



# フロンティアスクールの実績

- アグリ管理士・修了生（2007～2014年度）
  - 延べ514名が受講
    - うち179名をアグリ管理士として認定
    - うち305名に履修証明書を交付
- 先進的経営者・地域リーダーの育成
  - 先進的農業経営者
    - (有)盛川農場、(株)銀河農園、(株)アグリカシオペア、他
  - 集落営農等の地域リーダー
    - (農)アグリパーク舞川、(農)宮守川上流生産組合、他
- アグリ管理士がスクールの運営を支援
  - 講師、評価委員、受講生の発掘、他

# 修了生のIAFS評価



資料: 修了者136名へのアンケート(有効回答40%)

# 教育の手法や工夫について

- 多様な社会人ニーズに配慮した選択的なカリキュラム編成
  - 水稲、野菜、果樹、畜産、(加工)
- 講義、実習・演習、現地調査、現場スタディなどを組み合わせた授業方法の併用
  - 理解の促進、実践的な知識としての習得
- 自らの戦略や計画を策定し、その外部評価を受けるといったPBL方式
  - 教育成果が経営発展やスキル向上に直結

## 産業界の関与のあり方について

- 対象者の選抜、送り込み、通学への配慮、授業料の一部負担
- 教育の方向性、内容、方法に関する提案
- 現場教育の場、講師、資料などの供給
- ビジネス支援
  - 新規就農支援
  - 修了生ネットワークを活用した起業
- 運営資金の負担

# 社会人が通いやすい工夫について

- 勤務時期・時間に配慮した開講
  - 農繁期を避けた開講
  - (夜間開講)
- 必要に応じた補講の実施
  - 必修科目など
- 費用負担の軽減
  - 関係機関・団体による負担
  - (外部資金の獲得)